ささやき　11月号　NO.138

秋も深まり、朝夕の風に季節の移り変わりを感じる頃となりました。園庭の木々の色合いからも、少しずつ秋の訪れが感じられます。

先日の運動会では、子どもたちの一生懸命な姿に、たくさんの感動をもらいました。練習を重ねてきた演技を披露する姿、友だちと力を合わせる姿、ゴールを目指して走る姿。そして、うまくいってもいかなくても、最後まで頑張ろうとする姿。一人ひとりの表情からそれぞれの成長と、そこに至るまでの日々の積み重ねを感じました。子どもたちの成長を保護者の皆様と一緒に喜び合えることは、私たちにとっても大きな幸せです。

そんな運動会の余韻に浸りながら、ふと思い出したことがあります。私の娘は、運動会などの行事などは割と楽しんで参加する方だったのですが、年長の時思いがけないことが起こりました。リレーの第一走者だった娘は、他の子が一周して帰ってくるまで一歩も動きませんでした。観覧席から見ていた私はハラハラして目を覆いたくなる気持ちでしたが、担任の先生が優しく手を引いて、第２走者と一緒に走ってくれました。もちろんチームのみんなには申し訳なかったのですが、私にとっては娘にそんな一面があることを知る貴重な機会となりました。私自身、短距離は苦手で中学校まで本当に嫌々走っていました。（運動会前は毎日小学校で走る練習をしました）高校に入れば５０メートル走のタイム計測以外に走ることもなくなり、ホッとしてそんなことは忘れて過ごしていました。ところが！！某幼稚園に就職すると、運動会で『リレーのアンカーは担任が走る』という恐ろしいことが待ち受けておりました。陸上部だった先輩はスパイクまで持ってくるし、みんな完全に本気モードです。そんなわけでまたしばらく、運動会前には毎日走る日々が数年続くこととなりました。　ちなみに私の娘ときたら親の心配とは裏腹にリレーを嫌いになることもなく、決して速くもないのに小学校や中学校のリレー選手に立候補してしまうくらい平気でした。本番に弱いところは今でも変わっていませんが、彼女なりに結果を重んじるより自身が楽しむことを優先できるよう、たくましく育っていたようです。

『成長の一場面』



話は変わりますが、我が家は玄関を開けるとすぐに階段があり、天井までの白い壁が目に飛び込んできます。そこを私のお気に入りのギャラリー代わりにしています。息子と娘は年が５つ離れていて、娘がトコトコ歩くようになると『危ないよ』といつも息子が手をつないで危険を回避していました。兄の言うことを聞かない自由奔放な妹に、時に涙ぐむ姿もありました。そんな２人の後ろ姿が好きで、そっと写真を撮っていました。『子どもたちが成長するたびに一枚ずつ写真を増やしていこう♪』そんな思いで階段に沿って写真を飾り始めたのですが、気がつけば写真はわずか５枚。毎年増えていくはずだったギャラリーは、いつの間にかそのままになっています。年の離れた二人。しかも男の子と女の子。小さい頃は、手をつないだり自然に寄り添ったりする姿がありましたが、そんな姿を写真に残せる時間は思っていたよりずっと短かったのです。大きくなった今、二人が並んで歩くことはあっても、あの頃のように手をつないで歩く姿は、もう見られなくなりました。子どもは、毎日少しずつ成長しています。昨日と今日では大きな違いがないように見えても、気づかないうちにできることが増え、考え方が変わり、しぐさや表情も変わっていきます。親として、保育者としてもっと先の成長を願うこともありましたが、振り返ってみると何気ない日常の中にこそ、二度と戻らない大切な時間があったのだと気づかされたものです。みなさんも、「もう少し大きくなったら」「できるようになったら」と、つい先の姿に期待してしまうこともあるでしょう。しかし今甘えてくる姿も、夢中で遊ぶ姿も、同じことを何度も繰り返す姿も、今だからこそ見られるものです。子どもたちの未来を楽しみにしながらも、目の前にいる子どもの「今」をしっかり見つめて欲しい。　できたことだけでなく迷っている姿も、失敗する姿も、何かに夢中になっている姿も、その子らしい成長の一場面として大切にしてほしいと思います。階段ギャラリーの５枚の写真は、私にそんなことを思い出させてくれます。これからも子どもたちの成長を願うとともに、今この瞬間にしか出会えない姿を心に刻んでいきたいと思います。

園長　：　讃井　理香